

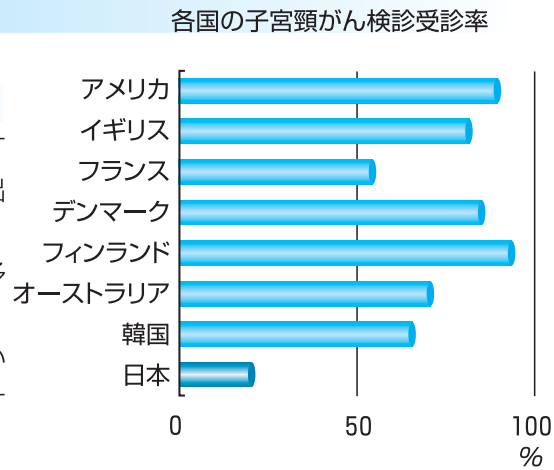
## 子宮頸がんは予防できますか？

以下の方法により予防が可能です。

### ・子宮頸部がん検診の受診

子宮頸がんは、がんになる前の異形性の段階で見ることが大切です。この段階で治療を行えば、子宮を摘出することなく簡単な治療でほぼ100%治すことができます。定期的に検診を受けることが、誰にでもできる最善の予防法です。

日本で子宮頸がん検診を受けている女性は、わずか23.7%。先進諸国に比べて極端に低いことがわかります(右図参照)。



検診を受けていれば防げるのですが、検診を受けないために、がんが進行してしまってから発見されることが多いのです。

### ・ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染防御

性交渉によって女性から男性、男性から女性へと感染するウイルスです。子宮頸がんだけでなく、陰茎がんや口腔がんの原因ともなります。

検査をしない限り、感染していても気づくことはほとんどありません。節度ある性交渉とコンドームの使用が有効です。ただし、コンドームでカバーできない部分にウイルスが存在する可能性もあります。感染を完璧に防ぐ方法は存在しませんので、感染を発見する検査が重要な意味を持ちます。

### ・禁煙

子宮頸がんに限らず、肺がんのリスクファクターとしても事実であり、禁煙は有効です。

## 子宮頸がん検診ってどんな検査？

子宮頸がんの検査には、細胞の変化をチェックする「細胞診」と、ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染を調べる「HPV検査」があります。

検査法はとても簡単で、細胞診・HPV検査とも、子宮の入り口(頸部)の細胞を採取して検査をします。綿棒くらいの小さな専用の道具で軽くこすって細胞を採取しますので、痛みはほとんどありません。だいたい1~2週間くらいで結果が分かります。

両方の検査を受けることで、がんになる前の段階で発見することができます。

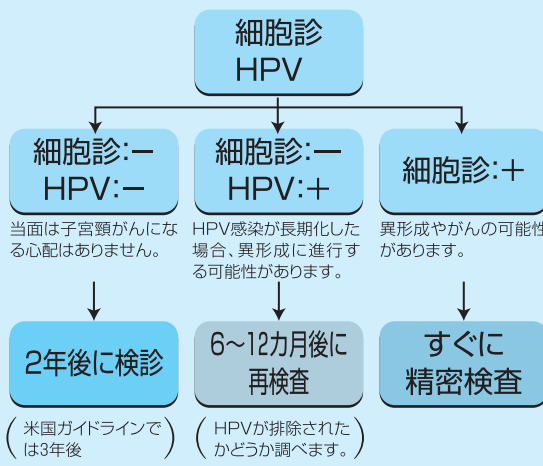
### ●子宮頸がん検診(一例として)

・細胞診 2,100円 ・HPV検査 4,200円

1年に1回は検診を受けましょう。

検診を受けていなかったために、子宮頸がんになってしまうなんて残念なことだと思いませんか？自分を守るのは自分自身です。

### 検査結果とがんの危険性



当院では、細胞診・HPV検査どちらも対応しております。

～お問い合わせ～ 公立雲南総合病院 保健推進課 または 産婦人科 TEL 0854-43-2390 (代)

# 子宮頸がんのお話し

産婦人科部長 川上 伸 兒

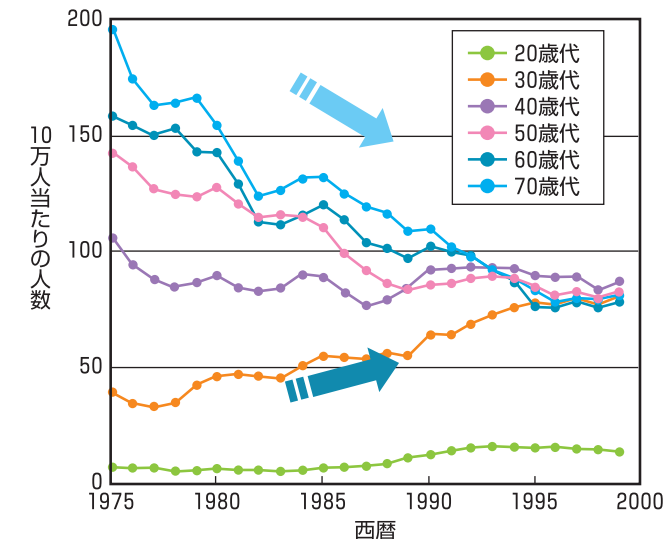
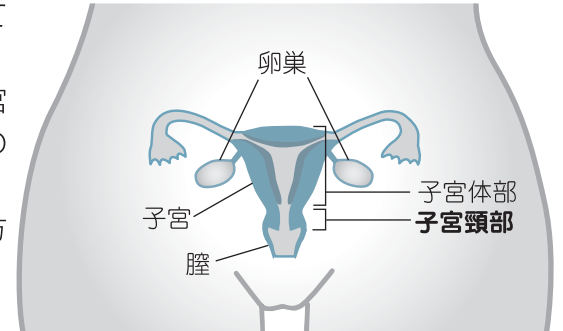


## 子宮頸がんってなに？

「子宮がんなんて、まだ自分には関係ない」と思っていませんか？

子宮がんには、子宮の入り口(頸部)にできる「子宮頸がん」と、子宮の奥(体部)にできる「子宮体がん」の2種類があります。

この2つは、原因も、なりやすい年齢も、進行の仕方もまったく違う病気です。



「厚生省がん研究助成金「地域がん登録」研究班による「全国がん罹患数・率の推計値(1975-99年)」より

子宮体がんが閉経前後の女性に多いのに対して、子宮頸がんは若い女性でもかかる可能性が高いがんです。

特に最近では、20~30歳代の若い女性で子宮頸がんにかかる方が増えています。

子宮頸がんは、ほとんどの場合初期には自覚症状がありません。不正出血や下腹部の痛みなどがあつた場合は、進行している場合も少なくありません。

## 子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんは、以下の原因によって発症しやすいと報告されています。

- ・性交渉(ヒトパピローマウイルス(HPV)の持続性感染)
- ・妊娠、出産回数が多いほど発症しやすい
- ・喫煙

近年、若年齢での発症が急増しているのは、性交渉経験年齢の若年化と、性を取り巻く環境の変化によるものといわれています。

ヒトパピローマウイルス(HPV)はとてもありふれていて、一度でも性交渉の経験のある女性なら、その回数、期間、人数にかかわらず、誰でも感染の可能性があります。感染しても自覚症状はほとんどありません。

ヒトパピローマウイルス(HPV)には、100種類以上のタイプがあり、子宮頸がんの原因となるのは、その中で主に「高リスク型」とよばれるごく一部のタイプです。

また、高リスク型に感染した人でも、子宮頸がんを発症する確率は約1000分の1といわれています。

